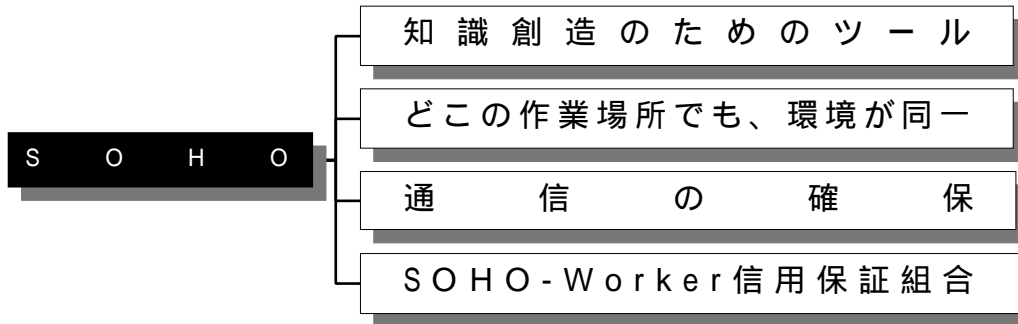


SOHOの意味

- ・「SOHOは、形態はどうあれ双方向のコミュニケーションによる知識創造である」
(コンテンツ開発・マルチメディアディレクター)



知識創造のためのツール

- ・SOHOで使われる機器は、すべて、「知識創造のためのツール」であるべきだと考えます。コンピュータが相互にネットワークすることで、「人間の脳の活動の一部」を代替する基盤が整いつつあります。
- ・コンピュータ（ネットワーク）が、電話やFAXといった、これまでのツールと圧倒的に異なる点は、それが、人間の「手」や「耳」、「口」といった器官の拡張機器ではないということです。すなわち、知的活動の一部を拡張するという画期的なツールである訳です。
- ・いま、インターネットで、あらゆる情報提供サービスが、先を争って提供されるのも、この事を考えれば、当然の帰結と言えます。
- ・画像、映像、テキストといった適切な情報を瞬時に手に入れられたら、とても仕事が捗ります。

どこで作業するにも、環境が同一であること

- ・会社、自宅、客先といったどこで展開するにしても、動作する環境、ファイルなどが同一であること。
- ・これは、いくつかの条件が必要ですが、作業効率を考えると対策が必要です。複数のマシンで作業をすると、ソフトウェアのバージョン管理は煩雑だし、ファイルの履歴管理を間違えると、最新のファイルが失われることも有ります。出来れば、最新の環境で、適切なファイルを使いたい。バックアップの整ったサーバマシンでソフトウェアとファイルを管理し、「NC+JAVA+ネットワーク」で利用するものを呼び出して使うという形態が使えるのではないかと考えています。

通信の確保

- ・双方向のコミュニケーションの確保のためには、通信の確保は必要条件であろうと思います。「知識創造のサポート」という機能を考慮すると、課金方法は定額制でなければなりません。

- ・理想は、公共企業体でインフラを整備し、その住人は専用線使い放題という形態ですが...

SOHO-Worker信用保証組合

- ・「ネットワーク・マッチング」を促進するために、第三者による個人の信用保証制度とその機関を作ってはどうかと思います。
- ・こういう機関は、両刃の剣ですから、あまり使わない方がいいのですが。
- ・しかし、知的生産活動の普及促進を考えると、既存の組織に無い、こういった機関は必要にはなると思います。
- ・最近、企業から個人が距離を持ち始めたため、個人を如何に正当に評価し、信用を保証するかの基準は策定が必要です。
(真に「知識創造」を考えたら、もう少し詰めが必要では有ります。)

仮説についての見解

仮説1. 【家庭の情報システム化が急速に進展】

SOHO(Small Office,HomeOffice)は、インターネット、ISDN、CATV、OCNといったインフラの充実を背景として、家庭の情報システム化が急速に進展し、これにより大きく普及していく。

家庭内での情報システムはなるべく安く構築されていくのだと思います。回線の変更より56Kモデムを買うとか、軽いスペックのマシンを選ぶとか。ですが、買ってしまったパソコンの有効利用のために、家庭内LANはじわじわ普及していくと思います。家庭と外をつなぐ目的は、WEBの閲覧というのもあるでしょうが、より具体的な物や事の絡む目的が現れてくると思います。例えば、現在あるものでは、パーフェクTVなどの有料番組申し込みや契約チャンネルの変更など。家庭から銀行口座にアクセスできるようになれば情報化も本物といえるでしょう。(北海道札幌市に住むフリーライター)

家庭の情報化としては、マックを1台にISDN、デジタル衛星放送を書斎として使っている部屋に設置しています。後は、移動体端末としてThinkPAD535を携帯しています。今のところ、通信に関してはISDNで満足しているので、パソコンと衛星通信は接続する気が無いのですが、これだけそろえると初期投資が大変です。所属する企業では、そういった側面の補助はないのですが、企業ないし公的機関による補助が有るととても助かります。デジタル衛星放送は、ホビーではなく英語学習と情報収集に活用していますが、配信されている映像情報は、ゆくゆくはパソコンに取り込みたいと思っています。(コンテンツ開発・マルチメディアディレクター)

家庭の情報システム化が進んでいくとは思いますが、それがSOHOにつながるかは疑問です。テクノロジーが発達すればそれに付随する仕事は増えると思いますが、

テクノロジーの影響だけで生活が変化するとは考えられません。
この場合、目的(SOHO)に対して手段(テクノロジー)が身近なものになったので、そのテクノロジーが家庭に進展するという意味なら賛成です。ちょっと揚げ足とりかな・・・、でもだいたい意味が違うと思います。(情報機器会社勤務後、在宅勤務主婦)

私はもともとフリーランスでネットも活用していたし、回りの仲間もそういう人が多いので、今さら珍しい事を始めたわけではありません。ただ、マスコミが、今まで零細企業とか、フリーと言われていた人々に急に光をあてた感じがします。しかし、それによって、そういう就業形態なら自分にもできる、と気がつく人が増えると思います。男性の場合は、在宅になるだけでも、会社を退社する、または会社自体が考え方を考えるなどのハードルを越えないとなりませんが、女性の場合は最初から在宅の人も多く、何らかの形で社会の中で自分の可能性を伸ばしたいと、思っていた人も多いので、比率的には女性の在宅ワーカーが、男性よりも大きく伸びていくと思います。(イラストレーター、グラフィックデザイナー)

これについては、少し疑問に思います。
従来より、フリーや独立、起業を目指している人にとってはありがたい環境が整ってきたということで、環境が整備されてきたから移行しようという人はそう多くないのでは？
もちろん、家庭の情報システム化は進むと思いますよ。(行政書士&Small Officeを実践)

私は急速には進展しないのではないかと思います。
その理由として、まずパソコン等が取っつきにくいことがあると思います。現在のパソコンは、何も知らない初心者にとっては敷居の高い物になっていると思います。現在、学校で行われ始めたコンピューターに関する教育を受けた子供達が大人になって来た頃には、PCの普及率も上がり、家庭の情報システム化ができていくのではないかと思います。
(電子顕微鏡を製造、販売している会社で、装置制御系のSE)

【Analysis】

家庭の情報化は、直接的にSOHOが発展する、ということにはつながらないが、家庭内LANなどのインフラは徐々に普及していくと考えられる。これにより、SOHO普及のバックグラウンドが整っていく、と考えてよいと思われる。
女性の場合は最初から在宅の人が多く、比率的に、女性の在宅ワーカーが、男性よりも大きく伸びていくと考えられる。

仮説2. 【有望機器システム市場】

2000年には350万人規模の在宅勤務者となる。SOHOは単に、機器システム市場として有望であるばかりでなく、ビジネスパートナーとして、また大企業にとっては、社員の在宅化、ネットワーク化という意味で、業務効率を高めることにつながる。

これは希望なのですが.....
女性社員の出産後の復帰の場として、成長することを期待しています。
長期にわたり生涯会社に行きつづけるような働き方はできなくても、プロジェクトごとに契約をくぎって働けるようになればと思います。

SOHOはその働き方のひとつ、強力な選択肢のひとつになりそうです。

個人の自動車レンタルも流行っているということですし、個人向けパソコン機器のレンタル業も、今後流行るのではないのでしょうか。使いたいときにスキャナなどを貸すシステムです。今もありますけど、まだ弱い。(北海道札幌市に住むフリーライター)

今のまま、SOHOをキーワードにして消費を煽っても、「ブーム」で終わるのではないかという気がします。個人だけでなく、企業も、すぐ陳腐化していくハイテク機器に対する投資で、青色吐息です。進まねばならないとわかっている道ですが、消極的になってきています。

真に重要なのは、知的生産物に対する評価基準の制定と、「生産性の高いワークフロー」の確立ですね。フリーの方の場合でも、ワークフローはともかく、評価基準というのは必要なのではないのでしょうか。(コンテンツ開発・マルチメディアディレクター)

これはそうだと思います。おそらく大企業にとっては近い将来、在宅勤務、サテライトオフィスを導入し、人材の確保、業務効率の向上を図らないとやっていけない時代がくると考えられます。

また、働き手のニーズとしても裁量労働を望声が高まってくるのではないのでしょうか、これはあくまで予想です。(情報機器会社勤務後、在宅勤務主婦)

この説は少しおかしいと思います。業務効率を高めることができるので、SOHOが増え、その結果機器システム市場も広がるというのなら納得できますが、マスコミと手を組んで機器システムメーカーのパソコン販売作戦のつぎが、インターネット普及作戦、つぎがSOHOをPRし、SOHOに関する機器システム販売作戦となり、貧しい在宅ワーカーがなけなしのお金をはたいて、よくわからずに不要なものまで買ってしまうのは、大変迷惑な話です。企業はお金をもっている、一介の在宅ワーカーが、パソコン周辺機器ひとセット、仕事用のソフト一式をそろえるのでも容易なことではないのです。在宅ワーカーを弱者と思って助ける気持ちで製品開発をしてくれるのならありがたいですが、金儲けになる市場という感覚で、弱身につけ込み弱者からお金をもうけようというお考えのあるような企業は、考えなおしていただきたいと思います。(イラストレーター、グラフィックデザイナー)

現在、コンピュータ関連業界は人材不足です。

WDCでは、家庭内にある女性の余力をも引き出そうという考えにあります。

ただ、アルバイト的に考えている方とプロを目指す方の違いや仕事の割当を行う管理者側の立場というのは、大変です。いずれにしても、女性の立場からすると沢山の企業や団体が個人をマネジメントできる体制を整えていただきたいです。

(ソフトウェア開発の会社の代表、ウィメンズデジタル倶楽部(WDC)代表)

【Analysis】

SOHOブームといわれるが、これがバブルになってしまっはいけない。SOHOの方向性については、「真に重要なのは、知的生産物に対する評価基準の制定と、生産性の高いワークフロー、の確立という」指摘がある。

企業の在宅化という意味では、企業や団体が個人をマネジメントできる体制を整えていくことが望まれる。

一方、在宅主婦の立場で、厳しい見方もある。

「在宅ワーカーを弱者と思って助ける気持ちで製品開発をしてくれるのならありがたいですが、金儲けになる市場という感覚で、弱身につけ込み弱者からお金をもうけようというお考えのあるような企業は、考えなおしていただきたいと思います。」というものである。在宅主婦の立場、意向を踏まえた、共生のパートナーシップの視点が重要であるといえる。

仮説3. 【フェイス・トゥ・フェイス・コミュニケーション】

SOHOは、OCN、ISDNなどのインフラ大容量の普及を背景として、フェイス・トゥ・フェイス・コミュニケーションが可能となっていき、ネットワークの共同作業もしいに行われるようになる。パソコンベースのテレビ会議、テレビ電話がしいに、SOHOでも重要視されるようになる。

どこにいても連絡がとれるというのは、SOHOにとって大切なこととは思いますが、日に何度も急ぎの仕事を受けているうちに、私の場合すっかりノイローゼになってしまいました。30分以内にこれこれをメールしろ、2時間以内にあれを作成しろ、など。電話が鳴るのがコワイですね。メールを受信するのもコワイ。連絡を取りにくくしていたら、仲間からある日ぶあつい封筒が郵送されてきました。中を見るとポケットベルのカタログがぎっしり。加入しろというんです。濃すぎるコミュニケーションには、反対です。なんのために互いに離れて仕事をすることに決めたのか。SOHOらしい働き方、個人の事情に合わせた仕事の発注・受注の仕方を、互いに考える時期だと思います。(北海道札幌市に住むフリーライター)

今のところ、画面の映像を利用したテレビ会議が主流ですが、どうしても「雰囲気」が足りない。どうしても、画面と自分の間に距離感を感じてしまいます。人間と映像の間の距離感を縮めるマン・マシン・インターフェースが開発されると、より効果が高いと思います。例えば、香りの出るパソコンというものが有りましたが、双方の部屋の香り(例えば、リラックスするラベンダー)を同一にして、空間イメージを同一にした上でヘッドマウントビジョンを使うとか。(コンテンツ開発・マルチメディアディレクター)

「必要性」あるかもしれませんが、「重要視」されるようになるかは疑問です。以前TV会議を利用していましたが、TV会議って最初の挨拶で相手の顔を見る程度で、後は書類を見てるのがほとんどでした。また、TV会議は帯に短し襷に長しといったところがあり、フェイス・トゥ・フェイスと比較してしまうと物足りないものがあり、結局は会って会議をすることになってしまいます。そこをがまんして使えば・・・、と言う話や、技術が発展すれば実際に対面してるのと変わらないという人もありますが、なかなかそうはゆかないと思います。それより、現在の技術をどう使ったら最適か、ということを経験を通じて積み上げてゆくことが重要かと思っています。(情報機器会社勤務後、在宅勤務主婦)

しだいにといっても、かなり時間がかかると思います。
今、電話・FAX・メールでたいがいの用件は足りてしまっています。自宅や会社にテレビ電話がないとこまる、と思う人はめったにいないのと同じで、仕事上でテレビ電話がないと不自由だとは、切実には思いません。かえって、化粧していなかったり、書類の山と化している狭い室内が、テレビ電話にうつったりしたら、大変まずく、おそらくそのような時は、仮の写真画像でも映しておくと思います。つまり、今我が家にテレビ電話を設置してもテレビ電話の用をなさないわけです。

それよりも、インターネットの技術をつかって電話代がもっと安くなり、インターネット1日つなげ放題でもお金があまりかからなかったり、アメリカと1時間電話で打ち合わせでも国内と同じだったり、携帯電話の料金を気にしなくてもよくなったりすれば、まず電話での打ち合わせをどこでも安心してできますので、それをしてもらいたいです。まずは、1対1で安い料金でどこでも打ち合わせができるようになれば、そのあとで、3人で話したいとか5人で話したいとか、パネルディスカッションをしたいという思いも沸いてくると思いますので、その時はテレビ会議をしたいと思うかもしれません。(イラストレーター、グラフィックデザイナー)

共同作業という点では重要でしょう。でも営業という事になればやはりリアルなフェイストゥフェイスが求められますね。
(行政書士 & Small Officeを実践)

【Analysis】

マン・マシン・インターフェースがの高度化により、より、ソフトタッチなコミュニケーションを行うことができる。とくに、共同作業という点で効果を発揮しよう。

在宅主婦の場合では、フェイス・トゥ・フェイス・コミュニケーションはかえって、好まれない傾向があるといえる。これは、SOHOらしい働き方、個人の事情に合わせた仕事の発注・受注の仕方を、「互いに考える時期」という指摘があるが、そのとおりであろう。

仮説4. 【モバイルSOHOの浸透】

アクティブユーザーを中心に、携帯電話、PHSを利用したモバイルSOHOが浸透していく。モバイルコミュニケーションの他、ときに(テレビディスプレイ利用含む)プレゼンテーションで有用となる。

複数の端末を使うため、それらに散らばった情報の統合方法が今後問題になってくると思います。効率よくメールなどを管理できるソフトウェアを希望します。
(北海道札幌市に住むフリーライター)

もう、これは必須です。出張などのときでも、日常と変わらない環境を持ち歩けるため、ストレスがありません。さすがに、携帯電話からネットワークアクセスはしませんが、ISDN公衆電話が有ると、ダイヤルアクセスしています。プレゼンも、PDFやPowerPointで作成するため、ThinkPADで客先に持ち込んだり、サー

バーにFTPして、閲覧してもらったりしています。
(コンテンツ開発・マルチメディアディレクター)

SOHOを考える上で、モバイルは必須だと思います。モバイルと言うとオフィス外でのネットワークを中心に考えがちですが、オフィス内でのネットワークについても考える必要があるかと思います。最近は無線もかなり性能の良いものがでてきているので期待したいです。移動(オフィス内・外)する度に、ノートブックのネットワークの線を外したつなぎ直すというのはスマートではありませんし、オフィスも使ってもいない配線がほったらかしになっている姿は美しくありません。(情報機器会社勤務後、在宅勤務主婦)

雑誌などを参考にそれをやろうと思ったのですが、MACのパワーブックは重くて常時持ち歩けないし、携帯電話は高いし、うちのPHSは性能がいいと強調するメーカーに持ってきてもらい試したところ、やはり室内ではつながらず、携帯電話とPHSを2つ持ち歩くような、ばからしい事はしたくないと思いました。今日会った友達は雑誌の取材で、庭でパソコンを使っている写真を撮影されたそうですが「誰が実際に庭でパソコンをつかうか」と笑っていました。しかし、一部のアクティブユーザーはすでにモバイルを活用していることは確かで、その中のさらに一部には、ビジネスに利用している人もいるのではないかと思います。

私はホームページの制作をしているので、お客さんにホームページの説明をする時にパソコンがなければ説明できない事もあるので「ときに(テレビディスプレイ利用含む)プレゼンテーション」は私の場合、仕事の一部となっていくと思いますが、その場合は携帯電話、PHSにつなげるというよりも、必要なデータを自宅から用意していったり先方の電話線につなげます。

超軽い携帯パソコンがほしいですが、デザインや出版はMACでないといけないので、システム手帳くらいの軽いパソコンは今の所あてにしています。
(イラストレーター、グラフィックデザイナー)

これは、その通りだと思います。

私も、LibrettoにPHSをつないでおります。客先や出張先でも、サーバーにアクセスする事で仕事場とほぼ同じ環境が得られます。あとは通信コストだけの問題ですね。
(行政書士&Small Officeを实践)

お客様で、営業マンにザウルスを持たせ日報をメールで送り社長がそれをデータベース管理したいという話がありました。

今までSOHOというと、ライター、プログラマーデザイナーというイメージでしたが営業までもSOHOになってきました。そもそも生命保険の営業もSOHOのはしりだったんですね。

(ソフトウェア開発の会社の代表と、ウィメンズデジタル倶楽部(WDC)代表)

【Analysys】

SOHOはモバイルと極めて関係深い、ということが出来る。生命保険の営業がSOHOの走り、ともいわれ、営業マンのモバイル化は多業種にわたって、浸透してきている。会社へ行かず、自宅から客先へ直行という動きもある。客先でのプレゼンについても、「プレゼンも、PDFやPowerPointで作成するため、ThinkPADで客先に持ち込んだり、サーバーにFTPして、閲覧してもらったりしています。」というビジネスマンもいる。

また、モバイルからのサーバーへのアクセスも行われている。「LibrettoにPHSをつないでおります。客先や出張先でも、サーバーにアクセスする事で仕事場とほぼ同じ環境が得られます。」こうしたモバイル環境がSOHOのひとつの潮流として発展していくと考えられる。

仮説5. 【バカンスビジネスの可能性】

仕事に追いかけている風潮から、ストレスが解消されやすい環境が整えられていく。人々は余暇を楽しみながら仕事をするようになる。たとえば、サテライトオフィスの他、リゾートホテル内でビジネスができるようになる。ホリデイでなく、バカンスビジネスという新しい可能性がでてくる(アスキー西社長が言及)。

どんなお客様かによりますが、相手が会社の場合、月曜朝までに仕事をあげるということも実態として多いのではないのでしょうか。SOHOワーカーは週末働いて、会社づとめワーカーはその結果をもとに平日に働くという悲しい構図。私の場合はそういうことが多いです.....
たとえ仕事をリゾートでしても、めりはりなく毎日働くというのは悲しいことです。でも、それを「バカンスビジネス」と名づけることは、確かにできますね。
(北海道札幌市に住むフリーライター)

バカンスというと、「遊びに来てまで仕事か?」という誤解を招くかも。
「人は、企業が管理しなければ基本的に仕事をしない」という意識に、毒されていると思います。もっと、信用してもらってもよさそうですけど。
仕事をどう位置づけるかは、その人の意識の問題だと思いますが、こういう場が与えられると、人の意識も変革していくと思います。
(コンテンツ開発・マルチメディアディレクター)

正直私はリゾートで仕事はしたくないです。ただ、アイデア発散のため気分転換で場所を変えてみるのはいいかもしれませんが、集中作業には向かないと思います。(情報機器会社勤務後、在宅勤務主婦)

すばらしいですね。でも日本人がリゾートホテルに出かけるのは2泊3日くらいが多くそれは、家族そろって休みをとれるのがそれくらいだったり、予算的なことがあったりするためです。SOHOは一流企業のサラリーマンと比べると割が悪く、フリーター程度の儲けしかでなかったりする場合も多いので、日本人の在宅ワーカーにバカンスビジネスの可能性が増えるか、日本人が年に一度のたとえば温泉旅館中に日常と同じように仕事をしたいと思うかはちょっとわかりません。
(イラストレーター、グラフィックデザイナー)

さすがにサウナの中では難しいですけど(^ ^);;;;;;
リゾートホテルでは使えると思います。
”余暇を楽しみながら”という点は、人により取り方が異なると思います。

私の場合、そうでもない余暇の時間はなかなか取れませんし、たまに遊びにいてもどこかで仕事の事が頭の片隅に残ります。そこで、朝、夕の1時間と限定して仕事をし後の時間は完全にリフレッシュにあてる。

一昔前は海外にさえれば、ベルも鳴らないし完全に頭から仕事という文字を払拭できました。今は、Librettoに回線があれば、仕事にまみれることも可能ですもの(行政書士 & Small Officeを実践)

これ実現したら良いですね。
窓から良い景色を見ながら仕事をして、疲れたらホテル内のプールやサウナで気分転換できたら、仕事もはかどるのではないのでしょうか。
(電子顕微鏡を製造、販売している会社で、装置制御系のSE)

【Analysis】

バカンスビジネスというのは、現在のビジネス風潮からすれば確かに、少々、逸脱しているといわざるを得ない。すなわち、「休みの日くらい、仕事から離れていたい」、という意識である。

21世紀へ向けて、ビジネスに対する価値感が大きく変わってくる。それは、ストレスのあるビジネスではなく、そこに感動があること、ビジネスそのものを楽しむ、という心のゆとりが求められてくる、ということである。この意味で、21世紀において、バカンスビジネスの可能性はある。ただし、そうしたコンセプトをいかに社会にわかりやすく認知させていくかが、大きな課題であろう。

仮説6. 【周辺機器の活用とアプリケーション提案】

SOHO市場では、インターネットパソコンのほか、FAX、デジタルカメラ、PDAなどのいわゆる周辺機器の活用が進む。アプリケーションの提案が重要となる。

ひとりずつ必要なものは一式そろえておく必要がありますから、やはり周辺機器もそれぞれ売れるのだと思います。ただ、周辺機器の接続の方法が問題です。全てコードにぶらぶらという状態では、美しいSOHOとはいえません。美しいモバイルにもなりません。おしゃれじゃなければ、今後多数の人は取り込めません。(北海道札幌市に住むフリーライター)

スパゲティコード関連事項 (北海道札幌市に住むフリーライター)

電気

自宅に仕事部屋をつくる場合、電源供給も問題ですね。
コンセントの数とアースの数なども。
突然の電源断が恐ろしくて、照明を全部つけられないわたしです。

より省電力な機器を。もしくはSoho用として特別な電源配備のある住宅を。

車

札幌では今が紅葉の真っ盛り。
数日、公園の駐車場に停めて、昼寝する営業マンにまじってリブレットを打っているのですが、車まわりのモバイル製品が、もっと気安くショップで買えるようになればなぁと思います。海外製品では、助手席用デスクや車用パソコングッズ収納などかわいくて楽しいものがあるようですね。

プリンタの位置

ラックの上に置くと手が届かない、デスクの上だと場所をとる。結局プリンタは遠く離れた棚の上。出てくる紙が平らじゃなくても上手に重なるよいしくみのプリンタはできないものなのでしょうか。
同じくファックスも！

パソコンの音

なんでもPC 9 8仕様では消音パソコンが主流とか。まちきれません。夜こっそりノートパソコンを起動するだけでも、ぷいーんと目立つ音がします。夫にじわじわ布団から蹴り出されます。

CD-ROM

雑誌の付録などで大分たまってるのですが、何か再利用の道はないでしょうか。価値あるものがつまっているようで、古くても捨てるに捨てられない。

マウス

パソコンをはじめたころに、マインスイーパで押しすぎたせいか、カチカチすると人差し指の先にしびれが！ ソフトタッチであまりカチカチいわない、指にやさしいマウスを希望します。

フロッピーディスクのラベル

みなさんはどこに文字を書かれていますか。わたしは背中の中の細いところに書いています。書きにくい！ 書いてから上手に背中に合うように貼るのも至難の業です。何かよい方法を……（叫）
そのうえ最近使わなくなりました。もったいない。何かよい使い道を……っ

机

モニタからの距離が十分な机がありません！ モニタを置いている机と椅子の間にもうひとつ小型のテーブルをかませて使っています。モニタの表面から端まで1m30ほどあれば、自在に置き場所などを工夫して一番よい距離を選べると思うのですが。

それまで約1年、床やベッドの上にノートパソコンを置いてかぶさるように仕事をしていたのですが、（ラックや机はあったけれど、なんとなく使わなかった）背中がばりばりいうようになったので、新しく大きめの食卓机と

食卓用椅子を買いました。回らない椅子は腰に良いようです.....

インターネットパソコン（一般家庭用にはインターネットパソコンは普及するかもしれませんが、在宅ワーカーが買うとしたら、インターネットに限定した機種よりも、いろいろ使える普通のものの方がおすすめです）

FAX

デジタルカメラ（職種によります）

PDA x（何だかよくわかりませんが、耳にしたことがないので知らないものだと思います）

周辺機器の活用が進む（他にプリンター、230MO、スキャナーを常時使っています）

アプリケーションの提案が重要となる（いろいろあっても必要なものは限られます。

業界で必須レベルのものだけがなくて、それ以上は個人の好みの領域となります。仕事のソフトは10万位のものも多く、フォントも高いので、最低限を揃えるのも大変です）

（イラストレーター、グラフィックデザイナー）

米国のパソコンショップにいったら、周辺機器アクセサリ関連がたくさんあって「これば便利」というアイデア物もいっぱい。

機能重視も大切ですが、日本の狭い自宅&オフィス事情を考慮したものを作って欲しいです。ケーブルをまとめるおしゃれなホースとか、マウスとキーボードはすべてワイヤレスにするとか。。。

（ソフトウェア開発の会社の代表と、ウィメンズデジタル倶楽部（WDC）代表）

SOHOにも2種類あって

1、企業に属するテレワーカー

2、いわゆる個人で仕事をするフリーランス

確かにSOHO向けの器材や環境は整ってはいますが、2のフリーランスにとっては、器材やソフトを購入しなければなりません。

最低パソコンと通信機器はよいとしても、開発用のソフトや画像処理のソフトは高く、それらの回収をするのに時間がかかります。

これから独立を考えている人にとっては、ネックになるのでは？

SOHO向けにリースや待遇が得られればよいですね。

（ソフトウェア開発の会社の代表と、ウィメンズデジタル倶楽部（WDC）代表）

【Analysis】

パソコンが価格競争に突入している現在、メーカーは周辺機器、ソフト、サービスなどで利益をとろうとしている。「プリンターの周辺機器がパソコン」(セイコーエプソン)と言わしめるほどである。

意見の中で、

「周辺機器の接続の方法が問題です。全てコードにぶらぶらという状態では、美しいSOHOとはいえません。美しいモバイルにもなりません。おしゃれじゃなければ、今後多数の人は取り込めません。」という指摘がある。これら周辺機器の美的感覚、デザインなどが、重要となる。

またSOHO向けにパッケージ化されたシステムを提供したりすることも考えられよう。

仮説7. 【SOHO文化の構築】

SOHOは、米国では市民権を得ており、支援サービスなどが充実している。国内では、税制をはじめ、政策支援がまだこれからである。SOHO市場、SOHOビジネスの活性化は、低迷する経済に活力を与えることになる。今SOHOの輝く21世紀ビジョンの構築が、SOHOビジネス企業に求められているといえる。

SOHOワーカーが増えれば、個人事業主用の本が売れることでしょう。給与所得者のアルバイトの本、二足のわらじ本など。(わたしに書かせて..... ^^;)
仮説に関して、論じてみたいと思います。企業のSOHO実践者という立場です。
(北海道札幌市に住むフリーライター)

NFPO(NPO)のような組織体で、支援サービスが出来るといいと思います。「人の知的生産物は、社会の財産である」という立場からすれば、企業に縛られない方が良いと考えます。これは、私の研究課題の一つです。(コンテンツ開発・マルチメディアディレクター)

在宅勤務が増えてくると、同じ会社の間でもどこで集まって会議をするかといったことが、現段階でも問題になっているようです。
私は、地方自治体もしくは企業の共同体がサテライトオフィスを設置してくれることを期待しているんですが。自治体がサテライトをすることで、ひとつに高齢者や生活弱者もSOHOに参加する機会を作ることが可能になるのではないのでしょうか。世の中にはアプリケーションの操作はできるが、コンピュータ本体の設置や設定はできないという人が少なくありません。特に高齢者や身体障害者の方など、体力的に設置が不可能な方もいらっしゃいます。こうした方々の働く場としてサテライトを運用できるとよいのではないのでしょうか。「SOHOは本人のやる気！」みたいな根性論もありますが(ある意味正しい)、何らかの理由でそれが不可能な人々にはある程度のサポートも必要ではないのでしょうか。また、自治体の施設は大抵ネットワークに弱く企業の間が集まって会議をするには不十分です。こうした機能を持ったサテライトが数箇所でもできるとSOHOもまた違った発展があるように思います。

先日日経新聞にびっくりする記事が載ってました。それはある在宅勤務(多分入力関係)女性のコメントで、「SOHOと思って仕事をしていたけれど、知人に話したら「内職と同じね」といわれたので続けるかどうか迷っている」といった趣旨のものでした。SOHOとはいっても世間では単なる流行として捉えている人も少なくないようです。現段階で、どこまでをSOHOとして見るかは非常に難しいと考えています。単にコンピュータを使っている人もSOHOとするのか、ネットワークを利用している人々もSOHOとするのか、「コンピュータを使っている」「ネットワークを利用している」にも色々なレベルがありますし。全てをSOHOとして、
型とするのが一番無難なのかもしれません。
(情報機器会社勤務後、在宅勤務主婦)

「SOHOの輝く21世紀ビジョンの構築が、SOHOビジネス企業に求められているといえる」
ええっ！21世紀ビジョン構築を求める先はSOHOビジネス企業(零細企業)にというよりも、税制や政策支援を考える行政であったり、SOHOを市場と考える大手メーカーで

あったり、起業を支援してくれる金融業であったり、零細企業を助ける商工会議所のようなところや零細企業にも快く力を貸すかどうかを考える弁護士とか会計士、女性や障害者などの自立を考える諸団体、などであったりするのではないのでしょうか。SOHOビジネス企業（零細企業）は自分がやっていけるかどうかで精いっぱいだと思います。

（ここでいうSOHOビジネス企業というのは、SOHO本人のことと思いましたが、SOHOをビジネスにしようと思う企業のことでしょうか？）

この仮説からは全体にSOHOの実態があまりわかっていない感じがします。SOHOというのが、バブル崩壊後、どこかの下請け的な仕事をぎりぎりの安さでやってきた零細企業がバタバタと倒産した中、今なんとかつないでいるような海のようなところへ、新たにくり出そうとしている小舟（パソコンやインターネットという新機能をもってはいますが）のようなものであることが理解させていないと思います。

SOHOの人たちはそんなにお金をもっていないので、何十万もするSOHOデスクセットや、会社で使っていたような高価な最新コピー機やプリンターは買えないので、期待の市場にはならないと思います。考えていただけのなら低価格の高性能パソコンやアウトレットや中古市場を充実させるとか、小口でも自宅に届けてくれる事務用品・パソコン用品の直販とか、メーカーサポートを充実させてほしいです。

（あと女性の背丈や感性に似合わせた商品も）

SOHOを考える人というのは、新しい時代に即したベンチャー企業の独立を考える人や、もともとフリーランスの仕事形態だった人だけではなく、今までのサラリーマン生活に自分を見いだせなかったり疲れを感じた人・主婦のパートに出るよりも在宅に価値を感じる人、今まで仕事自体が少なかった障害者や高齢者、なども多くなってきます。

知り合いのご主人は優秀な工業デザイナーで、独立したところ、独立の時は仕事を回すといっていた取引先の担当者に、仕事を回したいと思っていたけれどもいろいろなかねあいがあって回せない、と言われ、今クオリティーの高い仕事を売り物にするのをやめ、町の看板でもなんでもやる、という方針に買えて、苦しい状況のようです。

有能な方が、チャンスに恵まれれば、ビルも建つ場合もあるでしょうが、それは、たくさんの相撲取りの中から幕内になる人がほんのわずか、たくさんの演劇を志す人の中からテレビで活躍する人がほんのわずか、という世界に似ています。

多くの場合は、日本の中で今まで恵まれなかったと言われてきた零細企業の部類ですので、そこからどう儲けるかというよりも、どう支援していくか、行政や大企業にどう働きかけ零細企業をとりまく環境を変えるか、というのを考えてほしいです。SOHOの人たちはクチコミがたよりのので、善良なメーカーにはお客がついていくし、SOHOを餌食にするような起業を見破り、みんなで自主防衛しボイコットしないとならないのです。

マスコミの影響で、そのような弱者が脚光をあび、さまざまな環境がととのっていくのはありがたいことだと思っています。（イラストレーター、グラフィックデザイナー）

SOHOのサラリーマンの必要経費を認めてくれれば、良いですね。

SOHOをやろうとすると、通信費が結構かかると思うので、それを必要経費と認めてくれれば、大分助かりますね。それに伴い、パソコンやFAX等の情報機器も認めてくれれば、家電業界の活性化にもなるし。

それから、SOHOが実現できれば、会社の近くに住む必要もなくなるので、地方の安い土地に家を建てる人も増えて、地方の建築業界や、地方自治体にも良いですね。

しかし、私には一つ疑問があります。

サラリーマンが在宅勤務した場合、就労時間や残業はどうなるんでしょうか？
年棒制になれば問題ないと思いますが、現在の給料制度ではどうなるんでしょう？
SOHO 手当みたいな物を作り、残業代は無しになるのかな？
(電子顕微鏡を製造、販売している会社で、装置制御系のSE)

2週間ほどまえの日経新聞に掲載されていましたが、SOHOを取り入れる企業には税制面で優遇されるとのこと。まだ決定されてはいないようですが、企業側の努力があってこそ成り立つものではないでしょうか？
ちなみに弊社はソフトウェアの開発をしていることもあり、6年前からSOHOを実施しています。完全なSOHOではないのですが出勤時間や休日は自由にしています。仕事柄、残業や就業時間にしばられることなく自分のプロジェクトをこなせばよいのです。ただし、SOHOを管理する企業の立場からすると、確実にコミュニケーションが取れないと仕事の進捗が見えないという点が一番の不安材料になります。
(ソフトウェア開発の会社の代表と、ウィメンズデジタル倶楽部(WDC)代表)

【Analysys】

SOHOについてのビジョンづくりは、大企業、地方自治体、企業の共同体などが進めている。一方で、米国SOHOの活性化を研究して、とくに税制面で政策当局のダイナミックなアクションを期待したいところである。SOHOを取り入れる企業は税制面で優遇される、といったことが検討されている。またSOHO、サラリーマンの必要経費として、通信費などが認められることがSOHOの普及へ大きくつながっていくことであろう。

一方、NFPO(NPO)のような組織体で、各種の支援サービスが出来るといい。これは米国スマートバレーで実績があり、こうした対社会的に貢献していく組織体が、現在注目されている。SOHOビジネスのほか、シルバー、福祉、地域貢献といった視点でも、ビジョンづくりが欠かせない、と考えられる。